

◇ 樋 口 功

○議長（清水満） 発言順位 6 番、議席番号 11 番、樋口功議員を指名します。樋口功議員。

〔11 番 樋口功 登壇〕

○11 番（樋口功） おはようございます。議席番号 11 番、樋口功です。通告内容に従いまして質問をさせていただきます。

過日、10 月 13 日、日曜日、駅前テレビという番組で「哀愁街道を行こう飯綱町と中野市へ」という放送がありました。見られた方もいらっしゃると思いますが、収録の時間帯は多分昼間の 9 時から 10 時頃だったと思います。

明治 21 年に出来たという牟礼駅前から栄町商店街道路に向かって、人っ子一人いない栄町銀座通りの風景が映し出され、そのような時を狙ったのかもしれませんが、アナウンサーの道歩きで放送が始まりました。通りの八百屋さん、角の文房具店、東京から町内に移住しバッグのお店を出された方、古くから営む旅館業の女将さん、最後には牟礼本町の食堂で昼食とそれから経営者が紹介され、20 分近い内容の放送でした。この放送の意味するところはよく分かりませんが、放送内容でよく使われた言葉がノスタルジーな街、哀愁漂う街並みでした。

この番組を見ていて、自分自身の子供時代を思い出しました。平出で生まれ、平出分校での 3 年が終わると、本校と呼ばれている今の牟礼小学校と同じ場所にあった牟礼東小学校、そして中学校に片道 5 キロ通いました。

何か欲しい物があれば、親に行き先を町に行ってくると告げましてバスに乗るわけですが、その町とは牟礼本町であり、駅前の栄町、あるいは三水の深沢でした。そこには商店街があり、様々なお店、食堂、魚屋さん、花屋さん、電気屋さん、服屋さん、本屋さん、自転車屋さん、金物屋さん、酒屋さん、そしてお医者さん、歯医者さん、床屋さんなどがあり、正にその地域に住めれば何不自由なく、ほかの地域に行かなくても暮らせるという思いがあり、子供心にその地に憧れを持っておりました。あれから 50 年、半世紀が経ち、すっかり様子が変わりました。

現在、町は 28 年度に策定しました第 2 次飯綱町総合計画に基づき、基本理念であります「あ

ふれる自然とともに豊かな暮らし創生」、これを目標に実現するための行動目標を6つの分野に分けて定め、29年度から着々と実行しております。その1つに創出が掲げられておりまして、農業、商工業、観光について数値目標を掲げ、行動目標を定め、取り組んでおります。

町がりんごを中心とした農業により富み、繁栄、栄え続ける日本一のりんごの町となることを目指し、そのための施策を新規就農者、あるいは認定農業者への支援、農業生産基盤の整備、中山間地域に適した作物の奨励、そして6次産業化による農家の所得向上策の取組、最先端の農業の研究、ブランド力の強化、首都圏への販路拡大など、広範囲の施策が計画、実施され、徐々にその成果が見えてきていると感じております。これに比べると、商工業について町の取組などはどうなのかと思います。本日、私からこの創出の1つである商工業について幾つか質問、あるいは提案をさせていただきます。

飯綱町は今日の姿を見れば、先ほど申しましたように確かに主産業は農業であるといえます。しかしながら、かつては先ほどの50年前の話のとおり商業や工業が栄えていた町でしたし、その面影が薄くなった今でも存在感を持って地域で愛されながら頑張っている事業者の方が多くいらっしゃいます。

第2次飯綱町総合計画で、町は時代の変化に対応した商工業振興施策を推進しますと掲げていますが、その実施状況を見ますと、やや元気のない状況にあるのではないかと私は感じております。計画の実施速度を速める必要、そして新たな効果的施策の検討が必要ではないかと感じております。5年後には見直しは行うでしょうけれども、もし今、間に合うのであれば、新しい施策も取り入れていいのではないかと感じております。

そこで質問をさせていただきます。効果的な施策を実施するためには、まず正しい現状の把握が大切と考えます。町は町内の商工業の現状をどう把握し、どのように認識しておられますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。ただいま非常に適切な分析等々いただきまして、

本当に有り難いと思って聞いておりました。

農業については、おっしゃるとおり本当によくここまでいろいろな事業を展開してきたと、広い分野で対応してきたというような思いをしております。

議員が幾つかの例を挙げた中に、やはり商工業については、本当に僅かな事業でしか取り組んでこなかったという経過があるなと思いました。事業者統計等々の数値から見ますと、平成28年の事業所の数が366、従業員が2,280人というような数字が出ております。10年前に比べると、事業者では17パーセントも減っており、従業員も9パーセントが減っている。こういう統計を見ただけでも非常に厳しい状況で推移していると判断をしております。

特に、議員からご指摘のあった栄町、牟礼の旧商店街を見ますと、正にシャッター通りということで、あの自転車屋も、あの魚屋も、みんなシャッターが下りて、牟礼、栄町で新鮮なお刺身を買える店が無くなってきてしまった。1万を超える人口がいながら、お刺身を買える店が無くなってきているという状況は、やはり非常に厳しい状況であると思っております。

事業者ご自身の後継者不足とか、事業の拡大が無理だとかの事情もございましょうけれども、やはり飯綱町全体の人口の減少、そして子供が少ないということは、靴も服もどんどん買い替えていく必要もないし、そういう消費の落ち込みが非常に厳しい状況になっていると判断しています。

辛うじて、昔からの宿場町、飲食を伴うような事業、そして個人の住宅等々を建設する関係の建築の皆さん等については、厳しい中でも何とか頑張って維持をしてきていただいている状況だと分析をしております。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 今、町長からお答えをいただきましたけれども、全ての業種において従業員の数が50人以下である。町の地域経済は、この中小企業者が支えていると言っても過言ではないと思うわけであります。

建築業の方にしてみれば、多くの建築業者は創業期間が10年を超えているわけですが、そういうことから言えば、地域内での知名度は確立している。しかしながら、仕事の内容とし

ては簡易な建築工事ですとか、除雪作業での収入、半分の方が農業も兼業しているというような経営内容でございます。

製造業につきましては町内に点在しておりまして、電子部品ですとか金属加工、金型製造など様々で、商業施設と言えば深沢地区、牟礼本町、駅前、栄町、その辺に集積しているということで、これは町が既にこのような分析もしておりまして、また後でお話させていただきますけれども、大型の機械を購入するなどの目標を立てるのに、町は非常に細かい分析をしておりまして、十分に町も現状は認識していると私は思っております。

このような分析の下で現在町が行っている、あるいは行ってきた活性化や支援策の内容について、これは行政報告書にもありますけれども、もう1度、主なものをお答えいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 申し上げます。プレミアム商品券の発行とか、住宅のリフォーム事業とか、どのぐらいの回数をやり、どのぐらいの事業効果、投資効果があったのかは、事務局を担当している課長の方から申し上げたいと思います。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それでは答弁させていただきます。まず、町長から説明がございましたプレミアム商品券、住宅リフォーム支援事業でございますが、これにつきましては町の独自の商工支援策として実施しているものでございます。

プレミアム付き商品券事業につきましては、平成24年度から29年度までの計6回実施しております。町の補助金額は約5,700万円で、経済効果につきましては約2億6,400万円になっております。

また、住宅リフォーム支援事業につきましては、平成24、25、29、30年度の計4回実施いたしまして、町の補助金額が約2,000万円、経済効果につきましては約4億5,200万円となって

おります。

この事業につきましては、小売業の売上げ増、町内施工業者の受注機会の拡大などを目的に実施をしたもので、町は地域経済の活性化に貢献できたのではないかと考えております。

あと樋口議員からご発言があったとおり、その他の行政報告書に記載されている融資関係等々についても簡単に説明させていただきます。まず、平成 29 年度の商工業の振興資金の融資状況でございますが、昨日答弁したとおり設備資金が 5 件で、融資額が約 1,400 万円。運転資金が 33 件で、融資額が約 1 億 4,000 万円となっております。

町は、こういった商工業振興資金等の融資を受けた場合に、商工業者に対して保証料や利子の一部を助成しているところでございます。平成 29 年度では、保証料の補給金が 39 件で、約 260 万円。利子補給が 82 件で、約 250 万円ということで、昨年度に限ってという保証料と利子の補助で 500 万円近い補助を町が商工事業者に支出しているということになっております。

また、創業時の利子の補助を上限 30 万円まで、創業者支援利子補給金という形で出しているわけでございますが、平成 29 年度は 4 件で、約 43 万円を補助しているところでございます。この創業者利子補給金については、平成 26 年度から実施をしているわけでございますが、平成 29 年度は過去最高の補助金額になっているところでございます。保証料や利子の補助実績は、ここ 10 年間非常に安定しております、商工業者のニーズに合った事業であると町は一定の評価をしているところでございます。

今日、商工会の皆さんも来ていただいておりますが、商工業の指導事業ということで、町は商工会に補助金を交付しているところでございます。平成 29 年度の経営指導員による指導件数は約 1,100 件指導をしていただいております。指導の多い内容というものが、経営支援とか、税務の記帳指導、金融指導、労務指導というような状況になっております。

こういった商工会事務局が、本当に小規模な事業者の皆さんの一番の相談窓口になっていると考えておまして、相談件数についてもずっと安定した件数が出てきておりますので、こういった商工業の指導事業というものも、確かな成果を上げていると考えているところでございます。以上です。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 町長からお話がありましたように、例えば飯綱町のプレミアム商品券の発行事業、あるいは飯綱町住宅リフォーム支援事業、これらにつきましては町が積極的に町の施策として実施しておりまして、その経済的な波及効果も非常に素晴らしいものではないかと思えます。今は隔年でやられているような感じがあるわけですが、できれば並行的にやっていければいいとは思っております。

いわゆる資金の融資事業、あるいは信用保険法における認定ですとか、保証料の補給金、利子の補給、こういうものはけっこう前からされていて、新規にどの程度入れ替わっているのかよく分かりませんが、そんなに大きな変化はないということでございます。

もう1つ、商工会が900万円の補助金を受け入れて、小さな企業の皆さんの経営の役に立つような指導等を行っている事業、これも大きな変化はないように感じております。非常に重要な施策ではあります。しかし、やはりその時々、もっとこの時代に合ったやり方などは、その都度検討をしていく必要があるのではないかと感じております。

1つの例を示しますと、例えば中小企業診断士に対応していただくような形で、いわゆる個別実地指導と言いますか、事業者自身が経営分析を行うことでの確な経営方針が定められる。それから、例えば商品陳列、客層に合わせた店づくり。ラッピング講習ですとか、ポップの講習ですとか、実際そこで役に立つような現地での指導のようなものも積極的に取り入れていければ、また少しは新しいものとしての受入れがあって、町も少しずつ変わるのではないかと感じております。

こういうものにつきましては、総合計画の5年目を待たずに前倒しで計画の見直しを行っていくことも必要ではないかと感じております。この辺についていかがでございますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 方針的なことですので私の方からお答えを申し上げたいと思います。

現在でも少し趣旨が違つかもしれませんが、商工会の貴重な人材確保のために町は従

来やっていない支援を一部ですけれども、実施をしているという経過もございます。御存じのとおり、現在、商工会も大分方向が従来のパターンから変わってきまして、今おっしゃった個々の経営指導に重点を置き、そして成果をきちんと上げていくというような方向の中で、今、活躍をいただいています。

私どもも、また商工会と相談をさせていただきたいと思っておりますけれども、やはり重要なのはマンパワーだと思っております。どういう人が、どういう意味での指導に当たっていただいて、議員の今のご提案だと、それが一種の学校で言えば加配の先生のような、いわゆる制度上の決まりの人員よりも、そこへプラスワンなり強力な体制を組んであげて、商工業の振興にあたったかどうかというご提案だと解釈させていただければ、予算措置、これは1年でやめたということではないと思います。一定の期間、やはり成果が出るようにやっていくとなれば、それなりの財源措置も必要ですので、良い提案として今後検討させていただきたいと思っております。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） そういう意味では、繰り返しになるかもしれませんが、3番目の質問です。今後、商工業の発展について、町としてはどんな姿を目指して変わっていくか。描いておられる姿を教えていただければと思うわけです。第2次総合計画にはあるわけですが、そんなことでよろしいのかどうかも含めて教えていただきたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 若干抽象的な表現にならざるを得ないという点がありますが、これからの商工業の発展、先ほど申しましたとおり私もよく申し上げておりますけれども、町が元気だというバロメーターは、商工業の振興、発展だと認識をしております。

したがって、現在の既存の商工業をやっている皆さんたちのご支援という関係については、かなり今年度も意識をして進めてきておりますけれども、町のもろもろの工事等々の発注の仕方を担当の課でも工夫をして、なるべく町内の建設、建築業者さんにも受けていただく金額内に収める、またはそれを分割するような形で発注をさせていただく。

また、今回、東黒川地区で住宅造成がスタートしていますが、主体は県の住宅供給公社に計画等は発注を委託していますが、実際の建築工事、土木工事の発注は飯綱町の推薦した会社で県の住宅供給公社は入札に掛けることとなります。したがって、発注はひとまず県の住宅供給公社であります、当然のことながら町内に関係のある皆さんでこれからも住宅建築、土木工事はやっていく。

あと、備品、コピー機等々の購入についても、町内の皆さんで賄えるようなスタイルにしていきたいということで、ともかく既存の業者の皆さんにおいては、なるべく事業をする機会、そういうものを増やすスタイルで進めていきたいと思っています。

また一方、企業誘致ということも非常に重要であると思っています。その基本は、なるべく農業に関連した企業の誘致を進めていきたいと思っていますが、良いサンプルは山本食品であり、八幡磯五郎さんであると思いますけれども、それが転じて、もっと違う食品の関係の企業が来ていただけるというような面の誘致をやりたい。

そして、もう一方はこれもまた商工会の皆さんたちと相談をしていきたいわけですが、目須田議員からも人口増やしていくつもりは今も変わらないのかという質問をいただきましたけれども、アンケート等を取ってみますと、いわゆる惣菜等を買うスーパーが欲しいという要望が非常に多くございました。そんな意味では、何とかスーパーみたいな店も出店をしていくような基盤をそろえていきたいと思っています。

今回、道の駅等々についても、大きな面積をご協力いただく目安が付いてきましたので、道の駅は道の駅としても、そこにいろいろな形で施設を併設していくようなことも非常に面白いのではないかと思います。そして、農業も組織や法人スタイルをこれから進めていかなければ難しいのではないかというお話が一般的になってきましたけれども、商業についても経営に当たっていくのが、できれば資本的参加でやって、実際の経営は誰かさんがやる、そういう新しいスタイルの共同経営というようなことで、リスクを分散するような形でスーパーをスタートさせるかとか、どこかのスーパーとタイアップして進めていくかとか、そういうような取組というのもやっていきたいと思っています。

農業と同じようにすぐ効果が出るとも思いませんけれども、総合的な対応策を整えて、徐々にボディブローが効いてきて、元気が出始めてきたと言われるような方向へ持っていきたいと基本的に思っております。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） そういうような形で大きな目標に向かって計画を立て、徐々に徐々にでもいいから成果を出していこうということで、そうしますとそのための施策、今、町長から幾つかご説明がありましたけれども、具体的に実施していかなければいけないということで、幾つか提案をさせていただきたいと思います。

その1つ目が商工会との関係でございます。町の商工業指導事業補助金、これは商工会の方に支出をされまして、商工会が中心となって様々な施策を実施しております。900万円の補助が出ております。このことは町と商工会がこれまでの実績も含め、強い信頼関係があることが前提であると思うわけでありまして。町内の商業、工業のまとめ役であり、実態を十分把握している商工会との関係は、更に強固なものとしていただくことが大切だと考えております。

近年、町と商工会によります飯綱町地域経済活性化懇談会が開催されているとお聞きしております。意見交換の場として、更にこれを発展させていただくのが良いと思っておるわけですが、この辺の見解について質問します。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。地域経済活性化懇談会でございますが、これにつきましては商工会の役員と理事者が出席をいたしまして、町からすると商工会の皆さんから現在の商工業の実態を聞く、非常に貴重な場になっているものでございます。

実際に協議する内容につきましては、商工会と町で、町の商工業の振興策について協議をする場になっているところでございます。これまで商工会の方から要望があった内容としては、例えば小規模企業振興条例の制定、創業支援補助制度の創設といった要望が出ているところでございます。以上でございます。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11 番（樋口功） 本年実施しました導入促進計画による先端設備の導入。町では特別措置法ということで30年6月6日に施行されておりました、これに基づく導入促進基本計画の策定は7月24日付けで国の同意を得まして公表されているわけでございますけれども、多分この制度の利用者というのは、まだ出ておられないと感じているわけでございますけれども、この制度につきましては、金融面、それと税制面で非常に有利なものがありまして、できればせっかく計画を立てておられますので、この辺も商工会の方々と一緒になって、もう少し参加者が増えるような形にしていいただければと感じております。

今、課長からお答えがあった中で、例えば長野市では移住者起業支援金、つまり市内に移住して起業する50歳未満の者に対して、上限100万円ですけれども、起業に関わる初期投資費用を支援する制度が実施されておまして、この制度、いわゆる創業支援制度という名前でもいいとは思いますが、移住者に限るかどうかは別としましても、町でもこのような制度が実施できないかと考えておりますが、いかがでございますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 正しく政策的なことですので私からお答え申し上げますけれども、確か信濃町でも同様の取組をしているようなことを聞いております。現在、飯綱町の中でも地域おこし協力隊が2年なり3年後、自分で起業してこの地域に住み着きたいという場合に、確か100万円を限度として支援していく、起業に関する設備投資等々の支援でございます。

ただいまのご提案、先ほど課長の答弁の中にもありましたが、商工会の役員の皆さんからも事務局からも検討願いたいという強いものがございましたので、新年度予算でどうするかじっくり検討して、何とか商工業の振興の1つの政策として考えていきたいと思っています。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11 番（樋口功） 次に店舗の改装補助金の実施についてお聞きしたいと思います。

飯綱町の第2次総合計画に、にぎわいのあるまちづくりとして、空き店舗や空き家を活用し

た創業、それから新規出店を支援するとともに助成制度を充実するなど、企業や事務所の誘致に取り組みますと書かれているわけでございますけれども、実態としましては、これまでに栄町地区に1件の進出があったと聞いておりまして、それ以外はないようございまして、空き店舗がない、空き家がないのか、あるけれども貸してくれないのか。あるいは出店希望者がいないのか。いろいろ考えられるわけでございますけれども、実態として聞いているのは、空き店舗があっても店舗というのは1階になるでしょう。住宅の一部としても、例えば使用しているトイレが1階にあるというようなことで、空き店舗部分にあることで、それを改修して貸し店舗部分と切り離すような提供ができないという実態があるようございまして、このような場合の改修費用の一部補助、支援、この創設についてはどういうふうにお考えでしょうか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） 今、樋口議員からのご発言のとおり空き店舗活用事業補助金ですが、平成23年度から始めておりますが、実際に活用された件数は1件のみでございます。

その理由は、今、議員のおっしゃられたとおりであることと、もう1つが飯綱町の空き店舗というのは施設が老朽化しておりまして、すぐには店舗として利用していただけない。そして、そのためには高額な改修が必要になるということで空き店舗活用事業補助金、賃料の2分の1を補助するといった制度がなかなか利用されていないと考えております。

それで、空き家や空き店舗を活用して、店舗事業者として活用する場合に建物などの改修に要する費用の一部を補助したらどうかといった提案でございますが、それにつきましては理事者とも相談しながら検討してまいりたいと考えております。以上であります。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 出店希望者はいないというよりも、むしろいるような感じがするので、できれば検討を急いでいただければ有り難いと思います。

いわゆる出店関係者、これを増やす制度があればと思います。どういうことか申しますと、出店準備体験をある一定の期間、継続してやってもらう。それがうまくいけば別の場所に店舗

を借りて実際に出店してもらおう制度。例えば、栃木県の鹿沼市においては非常にこれがうまく
いっておりまして、定着していると聞いております。ママフェスタなどにも非常に個人での出
店、出品が多いと聞いておりまして、そういう商売をしてみたいという気持ちを持っておられ
る方がいらっしゃるのではないかと思います。そのような方が体験できるような場所を作って
いただければと感じているわけです。それについてはいかがでございますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 一種のチャレンジショップのようなイメージかと思いますがけれども、公共
施設の多目的利用、おかげさまで第二小も西小もいろいろな利用の要望も出てきておりまして、
最終的にいろいろなものを選択して利用していくような形になるように思っておりますけれど
も、一定の場所をそのようなチャレンジの場に提供をするとか、または中心地等々にも、先ほ
ど議員のおっしゃるような空き店舗と思われる、空き住宅と思われるような場所については、
これも若い人たちをターゲットにしたかわいい美容院をやりたいとか、かわいい洋服しか専門
に売らないしゃれたブティックみたいなものをやりたいとか、いろいろご希望があるというこ
とを時々お聞きしますけれども、そういう場所を町が確保してあげて、一定の期間チャレンジ
をしてもらうというのは非常に面白いし、その通りが魅力のある通りにもなると思います。

この場ですぐ来年からというお答えまでできませんけれども、本当にいろいろな良い意味で
の研究を進めていきたいと思っております。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 今日お見えになっている商工会につきましては、商工会員という枠がありま
す。

例えば、家を建てるには土台がまず造られ、柱、壁、屋根、それぞれの素材を扱う業者、そ
れから組立てなどの職人さん、家具、水回り製品、キッチン製品の販売業者、こういうものが
積もって1軒の家ができる。これらを扱う者が商工業者でありまして、道路を走っていて気が
付いた方もおられると思いますけれど、商工会では地元のプロ集団と呼んでいるわけです。や

はり自分の仕事に自信を持っております。こういう方が商工会員としてそろっているわけでございます。

この方々のネットワークと言いますか、1つの仕事は自分だけではできないので、商工会に入っている人たちが融通し合って仕事をしていくというような形。それから、企画課の「IIZUNA 100 PROFESSIONAL PEOPLE」。これも100人の立派な職業人が紹介されているわけです。多分、会合を持っておられると思います。このような方のネットワーク作りの中で、やはり知り合いながら仕事もその中で互いに見つかっていくといった形で発展をしていくのではないかと思います。こういうネットワーク作りをしっかりと後押ししていただければ有り難いと感じているわけでございます。これは見解はいりません。

それで、先ほど町長からもお話があったわけですが、町の発注する公共事業について、可能な限り地元業者が受注の機会を得られるような施策につきましては、小規模事業者登録制度の実施。それから競争入札による場合の下請要件付き一般競争入札の実施。非常にすごいことをやったと思っています。この間の深沢の交流施設の契約でやられているわけですが、随意契約も含め、町内事業者の受注機会を多くするための工夫がされていると私は感じております。

先ほど町長からも説明いただきましたけれども、ここで若干、その辺の説明を企画課長からお願いしたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えしたいと思います。先ほど町長からもお話はありましたけれども、また今、議員さんからもお話がありましたとおりでございますけれども、町が発注する公共工事としまして、比較的少額な修繕工事等、これらにつきましては入札参加資格を有しない町内事業者を対象とする小規模事業者登録制度の活用によりまして、受注機会の拡大を図っておりまして、随意契約等もさせていただいているところでございます。

また、おおむね5,000万円未満の中規模の工事については、入札参加資格を有する業者のう

ちでも、なるべく地元業者への指名を行って発注をしているという状況でございます。このため、先ほど町長の話の中にもありましたとおり、できるものは工区を分けて、分割して発注するなどの工夫もさせていただいているところでございます。

また、5,000万円以上の大規模工事については、資格要件として地元業者の参入が難しいということもございまして、今、議員からもお話ございましたとおり、今年度から工事費の一定の割合を地元業者への下請を要件とする下請要件付きという一般競争入札の方式を、試行的ではございますけれども実施をしたところでございます。今のところ多世代交流施設の建築工事の発注1件のみでございますけれども、この入札方式の有効性、こういったものを検証しまして今後につなげていきたいと考えているところでございます。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 平成26年3月作成の牟礼駅周辺整備計画書によりますと、町が発展していくためにも商店街の活性化は重要であるとされています。そのためにはインフラ整備のほか、各店舗の経営努力、それから空き店舗を増やさない努力、商店街での定期的なイベント、例えば朝市、このようなものの方策も示されているわけでありまして。

駅前整備とともにこれらについても計画書のとおり検討されるよう提案しますが、見解をお聞きしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 計画にそのようなことを表現してございます。特に駅前については、一時期お店がみんな郊外に出ていくという、非常にそれがはやりの時期がございまして、一気に駅前が寂れてきたという時代背景がございまして、これはどこのJRの駅を見ても、そういう傾向があったわけですが、ここへ来まして少子高齢化という時代を迎えて、もう1回駅前を見直していこうではないかということから、飯綱町でも駅前というものについて新しい整備を始めております。

ただ、地域に合った、やはり身の丈を承知した駅前の整備というものも必要であろうと思っ

ています。昔のような大々的にいろいろなものをやるということよりも、その地域にマッチした、しかも何とか最小限の費用で良い効果が出るような整備というものを前提に置きながら、整備をしていきたいと思っています。あわせて本当に駅前通りという何とも楽しい言葉、やはり駅だけでは駄目で、栄町、深沢含めた駅前商店街、駅前通りの再整備というものも、私はこれから大きな要因として捉えていかないと町の発展になかなか結び付いていかない、電車の利用にも結び付いていかないだろうと思っていますので、いろいろな知恵を絞って進めていきたいと思っています。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 今回の町長のお話で思い出したことがあります。栄町の角のお店屋さんの奥さんが私にこんな話をしました。私のお店にお客さんが入ってきて、牟礼の駅はどこにあるかと聞かれるそうです。それも1回や2回ではなく、けっこう聞かれるそうです。要するに、こちらから駅はあっちにあると言われて進んで行っても、なかなか駅が見当たらない。通りの方に外れて入っていますので、これからはそのようなことも考えながら標示を考えていくことも必要かと思っていますのでございます。

最後に栄町の商店街、それから深沢商店街、牟礼本町は商店街としては最近、解散したと聞いておりますけれども、ここが元気になれば、その姿が他の集落にも少なからず影響し、飯綱町全体が更に生活しやすい町になることを期待したいと思っています。冒頭のテレビなどを見返したいと感じております。

そのためには商工業者の皆さんのみならず、それぞれの集落全体の問題として、企画課で進めておられます集落の将来プラン、これなども施策として絡めてまちづくりを進めることも大切ではないかと感じているわけでございます。私の質問は以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（清水満） 樋口議員、ご苦労様でした。

これから暫時休憩に入りたいと思います。再開は10時とします。